

(続紙 1)

京都大学	博士 (地域研究)	氏名	小田 なら
論文題目	ベトナム「伝統医学」の形成過程 ー医療の「制度化」と実践のあいだー		
(論文内容の要旨)			
<p>本論文は、20世紀以降のベトナムにおいて、「伝統医学」が外来の医学とせめぎあうなかで形成され、社会に浸透していった過程を明らかにした。具体的には、国家権力 (フランス植民地政権、南北分断・統一を経た複数の実体) が、正統性の担保の一環として、ベトナムの「伝統医学」を「制度化」しようとしてきた過程を通時的に跡付けることにより、国家建設とともに進行した「制度化」を通じて、上から形成された「伝統医学」だけでなく、そこから排除された知識や慣習、こぼれ落ちた実践も検証することで、伝統医学全体の構造を描き出している。なお、鍵括弧を付した「伝統医学」は、「制度化」、つまり制度の整備によって支えられてきた伝統医学の意味で用いている。</p> <p>序章では、ベトナムにおける「伝統医学」をめぐる主な概念の見取り図を示し、「南薬」が14世紀以降ベトナム固有の薬とされ、「北薬」 (漢方薬) との対照の下で用いられたことを明らかにした。一方、阮王朝では「北薬」を中心とする中国医学が正統な医学として信頼されていたが、やがてフランスの進出につれて、西洋医学 (西医) が次第に導入されるようになったことを示した。</p> <p>第1章では、フランス植民地政権が部分的な販売制限など、伝統薬に対する規制を行ったのに対し、ベトナム人知識層は伝統薬の「科学的な研究」と、ベトナム独自の南薬を身近な薬草として見直す運動を提唱したことを述べ、このような運動が、独立後に「伝統医学」を形成していく素地となったと指摘した。</p> <p>第2章では、1945年の独立から南北分断後の北部を対象とした。特に1957年以降、北ベトナム政府主導で在来知を「科学化」の名の下で「東医」と呼んで「制度化」し、西医によって行政村 (社) までトップダウン式に広めていこうとした。またインドシナ戦争の戦場のように、西医が必要に迫られて南薬を「発見」し、保健省が目指す「西医」と「東医」の知識の統合がなされていくような事例も見られ、国家政策は、医療現場の実態や需要にある程度見合うものでもあったと論じている。</p> <p>第3章では、先行研究の乏しい分断期の南ベトナムでも、「科学」に裏打ちされた「東医」を目指すことが提唱されたことを明らかにした。しかし、「東医」分野においては、北部に比べて華僑・華人の比率や影響力が大きく、それが南ベトナム独自の「伝統医学」創出、あるいは「東医」の「ベトナム化」の阻害要因となっていたことを指摘した。</p>			

第4章では、北ベトナムの下で南北が統一された1976年以降に着目した。統一ベトナムは「東医」を「民族医学」と名付け、北ベトナム方式の「制度化」された「伝統医学」を南部に移植しようとしたが、それが華僑・華人や宗教団体が「東医」を担っていた南部では軋轢を生んだことを明らかにし、むしろ、「南薬」ほどにはベトナム「伝統医学」の象徴的存在ではなかった鍼灸が、経済的困難による薬料不足のなかで、経済的負担の少ない医療として広がっていったことも示した。

第5章では、ドイモイ（刷新政策）後、「民族医学」から「伝統医学」へ呼称が変更されたのは、国際社会に復帰したベトナムが、国内統合のため「一つの民族」を強調する時期を過ぎ、対外的に広くアピールできる看板を必要とするようになったからであると分析した。しかし実態としては、北部でも国家が主導してきた「伝統医学」とは関連しない伝統医療を信頼し利用する人々も多く、南部でも個人の経験や学びに基づいた医療が実践されていることから、ベトナム国家の目指す「制度化」された「伝統医学」とは対極的な状況が展開されていると論じている。

第6章では、ベトナム中部のフエを事例に、現代ベトナムにおける伝統医療の実践を具体的に示した。特に専門医師養成の諸側面に着目し、高等教育における医師養成の場では、「伝統医学」の「制度化」には欠かせない「標準化」作業が必然的に求められるものの、医師らも明確な基準を示しにくい現場では、医療実践の難しさが語られると同時に、その裏返しで、個人の工夫の余地に醍醐味を感じていることを明らかにした。

以上をふまえ、ベトナムにおける「伝統医学」は、時代や地域によって呼称や対象とする内実が異なるにもかかわらず、各国家権力はそれを「伝統」とし一貫して「制度化」しようとしてきたと指摘した。その目的は第一に、「科学」に基づいた標準を明示することで医療への人々の信頼を得、ナショナルな「伝統」を創出して国家建設に役立てるため、また戦争や困難な経済状況などを背景に、それまで行われてきた鍼灸や南薬による治療・医療実践を現実的に推進せざるを得なかったためであると論じた。さらに、治療者や患者は治療の標準化の試みの恩恵を受ける一方、治療者個人の力量や努力にも依拠しており、国家の試みには限界も見られると結論づけ、人々がよりよい「生」を希求することで、新たな社会的需要に応じて「伝統医学」はこれからも創出されていくと予測している。